

# 第6学年1組 国語科学習指導案

学習者:第6学年1組 20名 指導者:古椎 賢一

1 単元名「どうして カニの親子じゃないの?」～「宮沢作品」の解説書を作ろう(全8時間扱い)

2 単元目標

宮沢賢治の作品を読み、作者の生き方や考え方を探りながら解説書にまとめる活動を通して、比喻や反復などの表現の工夫に気付くにつ、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解させる。そして物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることで、賢治の理想やタイトルに込められた願いや思いに迫ることができるようにする。

3 単元の評価規準

柱	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	・比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知(1)ク) ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知(1)カ)	・物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(思C(1)エ)	・宮沢賢治作品を幅広く読み、全体像を捉えながら見通しを持って考えをまとめ、文章の中から関連付けられる部分を学習課題に沿って意見交流することで共有し、分かったことを報告する事ができる。
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習する態度
評価規準	① 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ ② 比喻や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク	③ 「読むこと」において物語の全体像を具体的に想像している。 ④ 「読むこと」において表現の効果を考えている。C(1)エ	⑤ 進んで物語の全体像を具体的に想像している。 ⑥ 学習の見通しを持って考えたことを文章にまとめようとしている。 ⑦ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有している。 ⑧ 学習課題に沿って考えたことを報告しようとしている。 ⑨ 積極的に文章の種類とその特徴について理解し、今までの学習を生かして調べたことを報告しようとしている。

4 単元設定の理由

本学級の児童は、水曜日の朝読書の時間に電子書籍(Yomokka!)を利用したり、図書室にも足を運んだりと読書活動においては積極的に取り組んでいる。物語のあらすじをつかむのがはやく、教科書の「帰り道」の教材では二人の登場人物の行動を別々に書き表していたが、書かれている事実から場面を想像し、登場人物の心情を捉えることができた。友達の発表を遮ったり、さわりだりすることもほとんどなく授業中も粛々と進めることができるのだが、表現はするけれど、「なぜ」や「どうしてそう思ったの」などの切り返しの発問にはうまく答えられなかったり、うまく言語化できなかったりするため、そこから授業内容が広まらないし、深まらないという場面がある。

本単元では、宮沢賢治の「やまなし」という物語と「イーハトーヴの夢」という伝記の教科書教材を学習したうえで、なぜ作者は物語のタイトルを「やまなし」にしたのかを考える。リライトすることでもう一度、物語や伝記の本文に立ち返りそれらの根拠となる部分を探したり、作者の他の作品も並行読書したりすることで、考えを巡らせ、交流させる。そしてそれらを解説文(仮称)にまとめる活動を通して思いや考えを文章化する力も育ませたい。

単元の指導では、電子書籍を利用したり図書館司書とも連携をしたりして、タイトルと物語の内容の関連性を意識させながら宮沢賢治の作品に多く関わらせていく。そのうえでなぜ、他のタイトルではなくて「やまなし」になったのかを根拠をもとに自分の考えを持たせるようにしていきたい。友達との意見交流の場でも確固たる理由をつけて発表することで、自分の考えに自信を持つことを期待したい。その際、話型についても意識させ、話し合い活動を円滑に進めていくことでの「話す・聞く」力の向上にもつなげたい。更には、自分自身と作者の生き様を対比させることで、今後の自分自身の生き方について考えるきっかけになるように繋げさせたい。

5 単元指導計画(全8時間)

過程	時数	学習活動	評価
習得・活用	1	作品の題名に着目させつつ、それらには作者の思いや願いが込められていることを念頭に、どのような願いが込められているのかを探ろうとする学びの必要感をもつ。 最終的に宮沢作品の解説書を作ろうということを伝え、並行読書での目的意識を持たせる。 補助教材＝イーハトーヴの夢の中で紹介された作品について調べる。(「風の又三郎」「ゼロ弾きのゴーシュ」「北守将軍と三人兄弟の医者」「銀河鉄道の夜」「注文の多い料理店」「春と修羅(詩集)」など)電子書籍(Yomokka!)	③⑤
	2	「イーハトーヴの夢」を再読し、年表を作成する中で賢治の生きざまや人柄について考え、話し合う。	① ③
	3	賢治のその他の作品についての読書経験を話し合わせた上で、「やまなし」を再読し、他の作品との共通点や相違点をさぐる。	④⑦
	4	五月がどのような世界なのかを考える。	②
	5	十二月がどのような世界なのかを考える。	②
探究	6 未時	五月と十二月を対比構造に基づいて話し合うことにより、賢治の生き方・考え方からと重なる部分に気付き、なぜ題名が「やまなし」なのかという課題にせまる自分の意見を持つことができる。	⑥⑧
	7	賢治の生き方・考え方がわかる表現や、文章の工夫をもとに「やまなし」が描かれた世界を捉えた、自分なりの考えをまとめる。	⑩
	8	それぞれが考えをまとめた宮沢賢治作品、の解説書を作る。	⑥

6 本時の学習 令和7年10月24日(金) 第4校時 11:30~12:15

(1) 目標

五月と十二月の対比構造に基づいて話し合うことを通して、「読むこと」において物語の全体像を具体的に想像し、賢治の生き方・考え方についてせまる表現の効果について考えを持つことができるようにする。

(2) 展開

階	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点	評価
問いを立てる(2分)	<p>1 「やまなし」以外の題名を考えさせることで、なぜ題名を「やまなし」にしたのかという疑問を持たせる。</p> <p>○「やまなし」に他の題名を付けるとしたらどんな題名にしたいか考える。</p> <p>・カニの親子・カニの兄弟・カワセミ・クラムボン・恐ろしいカワセミ ・イサドへの旅行</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>どうして○○ではなくて「やまなし」なのだろう</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>賢治の写真を示し、作者の人物像を想起させる。</li> <li>「やまなし」に自分だったらどのような題名をつけるかを考えさせる。</li> <li>これまでに読んだ賢治や他の作家の物語の内容と題名についても参考にしてもよいと伝える。</li> <li>他にも候補がありそうなのになぜ「やまなし」にしたのかと自ら問うことにより学習課題を設定させる。</li> </ul>	
考えを広げる(20分)	<p>2 「やまなし」の題名の意味について話し合う。</p> <p>・五月と十二月の対比構造から考えを出し合う。(個人。思考が進まない場合→ペア)</p> <p>・やまなしはカニの兄弟げんかにわってはいってくれたから。</p> <p>・やまなしは命を奪うカワセミと違って命を与えるから。</p> <p>・やまなしはカワセミと反対で自分が食べられて命を与えているから。</p> <p>・やまなしがカニたちのお酒になるってことは、命を差し出しているから。</p> <p>・やまなしは平和な十二月に登場するから。=五月は平和じゃないから。</p> <p>・カワセミはクラムボンや魚を食べたので自然の怖さを教えてくれた。=『カワセミは「死の世界」』、『やまなしは「生の世界」』の象徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>五月と十二月の比較・対比することに児童の思考を誘う。</li> <li>視点がぶれそうなときは早めにカワセミの存在に気付かせ、題名がカワセミではない理由を探すようながす。</li> <li>「カワセミ」と「やまなし」はどんな関係になっているかと発問する。</li> <li>五月のカワセミが命を奪う存在であったことをおさえる→賢治の生き方・考え方とは反対だということに気づかせる。→だから題名には向いていない。</li> </ul>	
考えを深める(20分)	<p>3 宮沢賢治の生き方・考え方と「やまなし」の作品の共通点をさぐる。</p> <p>○賢治がやまなしを選んだ理由を作者の生き様の視点から考えてみる。(ペア話になり話し合ったことをロイロノートにまとめる。→全体交流。)</p> <p>・カワセミは命を奪う。肉や魚を食べない(命を奪わない)賢治の考え方とは正反対。</p> <p>・賢治は自分を犠牲にしても他の人に幸せを提供するような行動がみられた。</p> <p>・題名のやまなしは他の人に安らぎを与えるためにあるのではないか。</p> <p>・やまなしは賢治自身で皆の幸せを願っているのではないか。</p> <p>・やまなしの他の人の為に尽くす生き方が賢治と似ている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「やまなし」の意味と導入で確認した賢治の生き方や考え方で重なる部分を賢治年表をもとに考えさせる。</li> <li>調べたり自分の知っていたりする賢治の生き方・考え方と重なる部分はあるか問う。</li> <li>わが身を差し出す考え方が、見込んでいる意見の児童がいれば紹介する。</li> <li>平和主義者のいかにも賢治らしい行動や人柄とただそこにいるだけでかたちに生きる希望となっているやまなしを共通項でつなげる。</li> </ul>	⑥ ⑧
まとめ振り返る(3分)	<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <p>・生命には厳しさがある反面、豊かさもあることを伝えたこの作品の題名には平和な世界への祈りが願いとして込められている「やまなし」こそがふさわしいのではないか。</p> <p>・賢治が「やまなし」という題名に込めた思いや願いについて自分の意見を整理し、他の宮沢作品も含め、解説書を書く意欲を持つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>五月と十二月の対比構造に基づいて話し合うことを通して、賢治の生き方や考え方と重なる部分があることに気付かせる。</li> </ul>	

# 第4学年1組 社会科学学習指導案

学習者:第4学年1組 22名 指導者:上石 恵爾

1 単元名 特色ある地いきと人々の暮らし ～大分の魅力を全国に発信しよう～(全23時間扱い)

2 単元目標

県内の特色ある地域の様子について、特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係を調べ、白地図などにまとめる活動を通して、県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解できるようにするとともに、地域の様子を捉え、それらの特色を考え表現して、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

柱	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
目標	県内の特色ある地域の様子について、その地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料で調べて理解するとともに、白地図などにまとめることができるようにする。	県内の特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などを捉え、それらの特色を考え、表現できるようにする。	県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを共感するとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習する態度
評価規準	① 特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などについて地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、特色ある地域の様子を理解している。 ② 調べたことを白地図や文などにまとめ、県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。	③ 特色ある地域の位置、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、問いを見だし、県内の特色ある地域の様子について考え表現している。 ④ 特色ある地域の人々の活動や産業とそれらの地域の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして県内の地域の特色を考え、適切に表現している。	⑤ 県内の特色ある地域の様子について、人々の思いに触れながら、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、よりよく解決しようとしている。

4 単元設定の理由

本学級の児童は、47都道府県の名称や位置と自分たちの市や県の地理的位置、地形や主な産業の分布、交通網の様子や主な都市の位置について、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめることを通して都道府県の様子について学んできた。また、グループで話し合い、タブレットを使って考えをまとめることで、学習を深化させることができた。

本単元では、類似点と相違点など分かりやすい宮城県と比較しながら、大分県内の特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などについて、「大分の魅力を発信しよう」をテーマに学習していく。地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめることを通して、県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを学習することがねらいである。

単元の指導においては、地域の人々が自分たちの地域資源の保護・活用に努力している姿に具体的にふれさせることにより、自分たちの県の素晴らしさに気付かせるとともに、それをもっとアピールして発展させようというシチズンシップを持たせていく。

5 単元指導計画(全23時間)

過程	時数	学習活動	評価
習得活用	4	こけしをつくるまち・蔵王町 ～こけしをつくる蔵王町について調べたことをもとに、4コマCMをつくろう～	①②③④⑤
	4	国際交流に取り組むまち・仙台市 ～自治体のウェブサイトから姉妹都市を知り、交流の歴史や現在の取り組みをまとめよう～	①②③④⑤
	2	美しい景観を生かすまち・松島町 ～観光ウェブサイトや、動画サイトなどで観光用PR映像を紹介し合おう～	①③⑤
	2	古いまちなみを生かすまち・登米市登米町 ～文化財や昔のまちなみが多く残されていることを実感しよう～	①③⑤
	2	これまで学習してきた宮城県と大分県を比較しよう	①③④
	2	大分県から始まった『一村一品運動』 ～『一村一品運動』で広まった特産物を市町村別にまとめよう～	①②
探究	3	大分の魅力を全国に発信しようⅠ ～全国にアピールする市町村を決めて、調べたことをまとめよう～	①④
	未 時	大分の魅力を全国に発信しようⅡ ～これまでの学習したことを活かして、全国にアピールする方法を考えよう～	④⑤
	3	大分の魅力を全国に発信しようⅢ ～グループごとに考えをまとめ、発表しよう～	③④⑤

6 本時の学習 令和7年10月24日(金) 第4校時 11:30~12:15

- (1) 目標 大分の魅力を全国に発信するための方法を、考える活動を通して、大分県の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係、交通網をもとに市町村1つを取り上げてストーリーにまとめて表現し、よりよい未来を考えることができるようにする。

(2) 展開

階	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点	評価																				
問いを立てる(10分)	<p>1 前時までの活動を振り返り、本時の問いを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○前時までの活動の中で、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5つのグループに分かれ、アピールしたい市町村を決めている。</li> <li>・アピールしたい市の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係、観光資源、特産品、交通網などについてまとめている。</li> <li>・大分の魅力をもっと増やして、発信したいと考えている。</li> </ul> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>問い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>大分の魅力を全国に発信するためのよりよい方法を考えよう</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○以下の視点で考えていく</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・位置や自然環境</li> <li>・産業の歴史的背景</li> <li>・交通網</li> <li>・観光資源</li> <li>・特産品</li> <li>・伝統文化</li> </ul> </div>	<p>○前時までの活動の中で、アピールする市は、県内の中でも特色ある地域を選択するようにして、今はないものも加えながらストーリーになっているか確認させる。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th><th>位置や自然環境</th><th>観光資源</th><th>特産品</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大分市</td><td>都市と自然</td><td>高崎山 関アジ</td><td>関アジ</td></tr> <tr> <td>別府市</td><td>扇状地</td><td>温泉 地獄めぐり</td><td>とり天 竹細工</td></tr> <tr> <td>日田市</td><td>福岡熊本と隣接</td><td>九州の小京都</td><td>梨 焼きそば</td></tr> <tr> <td>国東市</td><td>半島</td><td>仏の里</td><td>椎茸</td></tr> </tbody> </table> <p>○5つの班に発表させ、①ストーリーになっているか ②新たな視点があったか 評価させる。</p>		位置や自然環境	観光資源	特産品	大分市	都市と自然	高崎山 関アジ	関アジ	別府市	扇状地	温泉 地獄めぐり	とり天 竹細工	日田市	福岡熊本と隣接	九州の小京都	梨 焼きそば	国東市	半島	仏の里	椎茸	⑤
	位置や自然環境	観光資源	特産品																				
大分市	都市と自然	高崎山 関アジ	関アジ																				
別府市	扇状地	温泉 地獄めぐり	とり天 竹細工																				
日田市	福岡熊本と隣接	九州の小京都	梨 焼きそば																				
国東市	半島	仏の里	椎茸																				
考えを広げる(5分)	<p>2 他グループの発表を聞きながら、評価する。</p> <p>○タブレットで評価入力する。</p>	<p>○実現可能性よりも、ストーリーの中で、なるほどと思うものを浮き彫りにする。</p> <p>○結果を見ながら、よいグループのよさなどを整理していく。</p>	④																				
考えを深める(27分)	<p>3 自分たちのグループのストーリーをより高め、それをアピールする方法を考えて、グループで話し合う。</p> <p>→ 個人で考えたことをグループで共有し、考えをロイロノートにまとめていく</p> <p>【予想される児童の考え】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4コマCMやPR動画をつくって宣伝をする→キャッチコピー</li> <li>・特産物に関するイベント開催やインターネット販売をする</li> <li>・外国人向けにサポートする取り組みや、互いの文化を紹介し合う機会を設ける</li> <li>・「大分三景」をつくって、観光客を呼び、歴史ある景観を守る取り組みを行う</li> <li>・SNSを活用する</li> <li>・インフルエンサーの活用</li> <li>・交通網の整備(新幹線、四国とつなぐ橋)</li> </ul> <p>4 話し合いの結果をまとめた、面白そうなアイデアを紹介する。</p>	<p>○話し合いは、司会1名・書記1名で進行させるようにする。</p> <p>○机間巡視をしながら、①ストーリー ②新たな視点 ③方法について、考えが深まるよう支援する。</p> <p>○改善した魅力アピールの内容をモニターに写し出して、説明させ、新たな改善点を板書していく。</p>	④																				
まとめ・振り返る(3分)	<p>5 本時の学習を振り返る</p>	<p>○しっかりと入力させて、提出箱に入れるようにし指示して、数名に発表させる。</p>	⑤																				

# 第5学年1組 算数科学習指導案

学習者:第5学年1組 27名 指導者:恵藤 昇

## 1 単元名 面積 〜どこに線を引くと解けるかな〜(全15時間扱い)

## 2 単元目標

三角形や四角形の面積について、その求め方や公式を考えたり説明したりすることを通して、面積を求めたり平面図形の見方・考え方を深めたりするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。

## 3 単元の評価規準

柱	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	底辺と高さの意味や公式について理解し、三角形や四角形の面積を求めることができる。	既習の面積の求め方をもとに三角形や平行四辺形などの面積の求め方を考えたり、求積方法を振り返って公式を導いたりすることができる。	三角形や平行四辺形などの面積を求める活動に進んで取り組み、ふりかえりを通して面積の求め方や公式のよさに気づき、生活や学習に活かそうとしている。
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習する態度
評価規準	①三角形や四角形の面積の求め方を理解し、公式を使って手際よくそれらの面積を求める力。 ②四角形や五角形の面積は三角形に分けて求められることを理解し、手際よく多角形の面積を求める力。 ③三角形の面積と底辺や高さの関係を理解し、比例するかどうかを表を使って調べる力。	④面積の求められる図形に帰着させて三角形・四角形・五角形の面積の求め方を考え、そのよさや特徴に触れながら説明したり公式を見出したりする力。 ⑤三角形の面積は底辺や高さに伴って変わることに関心し、表を使ってその関係を調べ、特徴に触れながら説明する力。	⑥自らが主体となり三角形や四角形の求積に進んで取り組む態度。 ⑦台形やひし形、多角形の求積において、面積の求められる図形に帰着させることのよさに気づく力。 ⑧粘り強く学習に向かう力。 ⑨自らの学習理解や態度をふりかえり、これからの学習に活かす力。

## 4 単元設定の理由

本学級の児童は、学習指導要領第5学年の内容B「量と測定」(1)に示された内容について、第4学年の面積の学習で長方形・正方形の面積公式を導き出し、L字型の面積でも活用しており、複合図形(正方形・長方形)の求積法についても十分に理解ができている。しかし、自分の考え方やその根拠を説明することに苦手意識を持つ児童が多い。

本単元では、図形の一部を移動して既習の図形に等積変形したり、既習の図形に分割したりするなどの数学的活動を取り入れることで、既習の面積公式に帰着させて三角形・平行四辺形・台形・ひし形の求積方法に発展させ、公式へ統合し、自ら数学的解法を構築していく態度を育成していく。

単元の指導においては、三角形や平行四辺形などの図形の面積を求める過程を通して、公式を自ら考えることで豊かな図形感覚を養うと同時に、公式の導き方等を、論理的に筋道立てて他者に伝えるように説明することができるようにする。

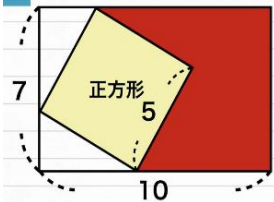
過程	時数	学習活動	評価
習得・活用	3	・直角三角形・鋭角三角形の面積の求め方を考える。 ・三角形の面積を求める公式を導き、理解する。 ・底辺と高さの関係を確かめながら演習問題を解く。	①④⑥
	4	・平行四辺形の面積の求め方を考える。・平行四辺形の面積を求める公式を導き、理解する。 ・底辺と高さの関係を確かめながら演習問題を解く。	①④⑥
	1	・底辺と高さの関係を意識しながら、高さが外にある三角形や平行四辺形の面積の求め方を理解する。	④⑥
	2	・台形の面積の求め方を考える。・台形の面積を求める公式を導き、理解する。 ・上底と下底、高さとの関係を確かめながら演習問題を解く。	①④⑦
	1	・ひし形の面積の求め方を考える。・ひし形の面積を求める公式を導き、理解する。 ・対角線と対角線の関係を確かめながら演習問題を解く。	①④⑦
	1	・練習問題を解き、学習内容を確実に身に付ける。	⑨
	1	・多角形の面積を三角形に分割することによって求める。	②④⑦
	1	・三角形の『高さと面積』『底辺と面積』の比例関係を理解する。	③⑤
探究	5	○既習した内容を用いて、応用問題(複合図形における求積)に取り組む。	⑥⑧⑨

5 単元指導計画(全15時間)

6 本時の学習 令和7年10月24日(金) 第4校時 11:30~12:15

- (1) 目標 複合図形において、これまでに既習した内容を用い、図形の見方を変えたり、補助線を引いたりしながら指定された部分の面積を求める活動を通して、自分の考えを論理的に説明することができるようにする。

(2) 展開

段階	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点	評価
問いを立てる(3分)	<p>1. これまでの学習を振り返り、本時の学習内容を確認する。</p> <p>赤色でぬりつぶされた部分の面積を求めるための手立てを考えよう。</p> 	<p>・問題の図形において、分かっている情報の整理と求める部分の確認をする。</p> <p>・面積ではなく、「手立て」のみを考えさせる。</p>	
考えを広げる(10分)	<p>2. 個人で考える。</p> <p>【予想される児童の考え】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正方形(黄色)の右上の頂点を通り、長方形の横の辺に垂直な補助線を引く。</li> <li>・上記とは違う補助線を引く。</li> <li>・正方形の左上 もしくは左下にある三角形の面積を求めようとする。</li> <li>・正方形を動かしてみる。</li> </ul>	<p>・ロイロノートでワークシートを配布する。⇒ 紙面上で考えたい児童のためにプリントも用意する。</p> <p>・「手立て」としてふさわしいものがどれなのか、一つ一つ確認する。</p>	⑥⑧
考えを深める(30分)	<p>3. 児童の考えた「手立て」を発表させ、どの「手立て」が解法へとつながるのかをクラスで考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正方形(黄色)の右上の頂点を通り、長方形の横の辺に垂直な補助線を引くことで、面積を求めることができることを確認する。</li> </ul> <p>補助線を引いてできた四角形は、本当に正方形なのだろうか？</p> <p>4. グループで考え、発表する。</p> <p>【予想される児童の考え】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○補助線を引いてできる四角形の四隅にある直角三角形が合同な図形であれば、正方形となることが言えることに気づき、合同が成り立つ条件を探す。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一辺とその両端の角がそれぞれ等しい</li> </ul> </li> <li>○面積を求め、発表する。 <math display="block">7 \times 7 = 49\text{cm}^2 \quad 49 - 5 \times 5 = 24\text{cm}^2 \quad 24 \div 2 = 12\text{cm}^2 \quad 3 \times 7 = 21\text{cm}^2</math> <math display="block">21 + 12 = \underline{\underline{33\text{cm}^2}}</math> </li> </ul>	<p>【論理的な説明の要素】</p> <p>○考え方を筋道立てて順序良く説明している。</p> <p>○補助線を引いてできる四角形が正方形になる根拠が明確である。</p>	
まとめ振り返る(2分)	<p>5. 本時の学習を振り返る。</p> <p>図形の問題を解くとき、図形を見た目で判断することなく、考え方の理由や根拠を明確にしながら説明をしたり、伝えたりすることができるようになることが大切。</p> <p>・今日の授業のふり振り返り(感想)を書く。</p>		⑨

# 第3学年 理科学習指導案

学習者:第3学年 27名 指導者:佐藤 与幸人

(草野 茂生)

## 1 単元名 かさは等しいのに重さが違う?(全7時間扱い)

## 2 単元目標

物の形や体積に着目して、重さを比較しながら、物の性質を調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に差異点や共通点を基に問題を見出す力や、主体的に問題解決しようとする態度を養う。

## 3 単元の評価規準

柱	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	物は、体積が同じでも重さは違うことや、形が変わっても変わらないことを理解するとともに、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録する。	物の性質について、差異点や共通点を基に問題を見いだしたり、観察、実験などを通して得られた結果を基に考察したりして問題解決している。	物の性質についての事物・現象に進んで関わり、他者とかかわりながら問題解決したり、物の性質について学んだことを学習や生活に生かそうとしたりしている。
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習する態度
評価規準	① 物は、体積が同じでも重さは違うことを理解している。 ② 物は、形が変わっても重さは変わらないことを理解している。 ③ 物の性質について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。	④ 物の性質について、差異点や共通点を基に、問題を見出し表現するなどして問題解決している。 ⑤ 物の性質について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。	⑥ 物の性質についての事物・現象に進んで関わり、他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 ⑦ 物の性質について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

## 4 単元設定の理由

本学年の児童は、これまでの生活経験や算数科の「重さ」で、重さの測定の仕方や単位について学習してきている。しかし、物の重さを形や体積と関連付けて調べたり、差異点や共通点を基に問題を見出し表現したりして問題解決したことはない。

本単元では、物の形や体積に着目して、重さを比較しながら物の性質を調べる活動を通して、体積が同じでも重さは違う場合があることや、形が変わっても重さは変わらないことなどを理解することがねらいである。

単元の指導においては、体積を同じにしたときの重さを比較したり、形を変えたときの重さを比較したりして、差異点や共通点を捉えることができるようにするとともに、水に溶けたものにも重さがあるのかを発展的に調べさせることにより、質量保存に関する基礎的な体験を豊かにするとともに、見えない中にある法則を見ようとしていたり見過ごさないようにしたりする態度に育てる。

## 5 単元指導計画(全5時間)

過程	時数	学習活動	評価
習得・活用	2	いろいろな物の重さを、はかりを使って調べ、物の種類と重さについて気付いたことを出し合うことにより、学習課題を設定する。	③ ⑥
	1	同じ体積で種類が違ふものの重さを調べる。	① ③
	1	粘土やアルミニウム箔の形を変えたり、いくつかに分けたりしながら重さを調べる。	② ③
探究	1	食塩や砂糖、インスタント・コーヒーを水に溶かし、全体の重さがどうなるのかを調べる。	⑤ ⑦

- (1) 目標 食塩、砂糖、インスタント・コーヒーを水に溶かし、全体の重さがどうなるのかを調べる活動を通して、物を水に溶かして見えなくなっても、全体の重さは水と溶かしたものの合計になることを知り、重さに関する見方を深めることができるようにする。

(2) 展開

段階	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点	評価
問いを立てる (10分)	<p>1. 教師の演示実験により、本時の学習課題を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・300mlの水と 20g の食塩の重さを測った後、食塩を水に溶かし、食塩が溶け切ったところで「全体の重さはどうなると思う?」と問いかけ、課題を設定する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>物が水に溶けて見えなくなると、全体の重さはどうなるのだろう</b> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・容器を除いた水300ml の重さと食塩20g を確かめた後、食塩を水に溶かし切り、溶けた食塩が目に見えないことを確かめておく。</li> <li>・同様に、砂糖とインスタント・コーヒーについても提示する。</li> </ul>	
考えを広げる (10分)	<p>2. 課題に対する予想を出し合う。</p> <p>【予想される児童の考え】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食塩は溶けてなくなったから、水の重さ300gだけになる。</li> <li>・粘土は形が変わっても重さは変わらなかったから、食塩が見えなくなっても320gだと思う。</li> <li>・インスタント・コーヒーは色が付いているから320g だと思うけど、食塩と砂糖は透明で、粒も見えないから300g だと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項や生活体験など、根拠に基づいて考えを述べるよう助言する。</li> </ul>	
考えを深める (20分)	<p>3. 班ごとに実験し、その結果を全体で交流しながら結論付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食塩20g、砂糖20g、インスタント・コーヒー20g、水300ml それぞれの重さを確かめる。</li> <li>・それぞれを水に溶かし、全体の重さを測らせる。</li> <li>・結果を比較し、どのようなことが言えるか考えさせる。</li> </ul> <p>【予想される児童の考え】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どれも、目に見えなくなっても320gになった。</li> <li>・色が付いていても、付いていなくても関係ない。</li> <li>・目には見えなくても、ものの重さはちゃんとある。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>水に溶かして目に見えなくなっても、物の重さはある。</b> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめに別々に重さを確かめた後、水に溶かした全体の重さを測らせ、表に記入させる。</li> <li>・食塩、砂糖、インスタント・コーヒーを溶かしたときの共通点や差異点に基づいて考察させていく。</li> </ul>	⑤
まとめ・振り返り (5分)	<p>4. 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の授業で新たに分かったことや、これからやってみたいことを書き、授業をふり返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習と比べ、新たに分かったことや、今後やってみたいことなどを記入するよう助言する。</li> </ul>	⑦



# 第2学年2組音楽科学習指導案

学習者:第2学年2組 16名 指導者:小野 真里江

## 1 単元名 虫の声をじょうずにかなでよう

## 2 単元の目標

「虫の声」を歌ったり、楽器を演奏したりする活動を通して、曲想に合った歌い方を考えたり曲に合わせた楽器を選択したりし、音楽の特徴を理解して歌唱したり曲に合わせた演奏ができるようにするとともに、音楽活動に意欲的に取り組み、友達の考えや表現の関心を持って学ぶ態度を養う。

## 3 単元の評価規準

柱	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	音楽の特徴(高さ・長さ・リズム)を理解し歌唱できる。 曲に合わせて楽器を演奏することができる。	旋律や音色を聴き取り曲想に合った歌い方を工夫し、曲や演奏の楽しさを見出して聴く。 曲に合わせた楽器を選択し、どのように表すかを考え、音楽的に工夫できる。	音楽活動に意欲的に取り組み、友達の考えにも関心を持って学ぶことができる。
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習する態度
評価規準	①曲想と歌詞の表す情景や気持ちとのかかわりに気付く。 ②思いに合った表現をするために必要な歌う技能を身に付けている。 ③曲にあった楽器で虫の声を演奏することができる。	④旋律や音色を聴き取り、曲や演奏の楽しさを見出して聴く。 ⑤音や楽器を自分で選び、特徴に合った表現を試している。	⑥「やってみたい」「友達の真似をしてみたい」と主体的・協働的に関わろうとしている。 ⑦友達の表現の工夫を認め音楽を楽しもうとしている。

## 4 単元設定の理由

本学級の児童は、歌うことや表現することを好み、音楽の授業後にその日に歌った歌を口ずさむことが多い。また、友達と話し合いながら何かを創造していく活動に意欲的に取り組み、よりよいものを表現することができる。

本単元では、「にじのクレヨン」で曲の感じが変わるところを見付けて、気持ちの変化を追って、表現の工夫を学習し、「むしのこえ」では、秋の夜長に聞こえてくる虫の声を想像しながら歌声で表現し、さらに探究活動において、虫の声に何の楽器が適当であるかを考え、リズムを工夫しながら表現することができる。

単元の指導においては、単元を通して歌で味わい、さらに楽器も加えてより厚みのある表現をしていこうという問いかけを続け、個人個人が音楽を表現する豊かさを味わいながら学習を進め、音で生活を豊かにする態度を育てたい。

## 5 単元指導計画(全6時間)

過程	時数	学習活動	評価
習得・活用	1	「にじのクレヨン」の前半部と後半部を比較し、曲想の違いを見出す。	①
	1	曲想の変化に気づき、曲想に合った歌い方をくふうすることができる。	② ③
	1	秋の夜長や虫の鳴き声を想像しながら「むしのこえ」の様子が伝わるように歌う。	① ②
	1	ながうた「むしのこえ」を聞いてより深く曲について理解を深める。 より様子が伝わるように歌い、実際の虫の鳴き声を聞き、虫の声を楽器で演奏するとどうなるか想像する。	③ ④
探究	1 (本時)	「むしのこえ」の歌に合う楽器を探す。 友達と話し合いながら曲想に合う楽器を決定していく。	③ ⑤
	1	「むしのこえ」を班ごとに演奏して、いいところや工夫したところを共有する。	⑥ ⑦

6 本時の学習 令和7年10月24日(金) 第4校時 11:30~12:15

(1) 目標

「むしのこえ」の演奏に使う楽器を選ぶ活動を通して、音や楽器を自分で選び、特徴に合った表現をいろいろ試すとともに、「やってみたい」「友達の真似をしてみたい」と試したり比べて選んだりすることができる。

(2) 展開

階	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点	評価
問いを立てる(5分)	1 前時のふりかえり (1)「むしのこえ」をうたう 本時の学習内容の確認  虫の声の部分をいろいろな楽器で演奏して、「むしのこえ」音楽会をやってみよう	・「曲想」にあわせてむしのこえをうたう。	
考えを広げる(20分)	2 グループでそれぞれ虫の担当を決め【5種類】その虫の声に合わせた楽器を選び練習する。 「むしのこえ」にでてきたむしの鳴き声に楽器を合わせてみましょう。  *考えられる楽器 まつむし:キーボード トライアングル グロッケン すずむし:キーボード すず グロッケン トライアングル こおろぎ:キーボード 木琴 すず くつわむし:ギロ 手作り楽器 マラカス キーボード うまおい:キーボード マラカス 3 グループ内で聴き合い、意見を交換する。 (1) なぜその楽器を選んだか、理由を発表する。 (2) 発表者は楽器の演奏をする。 ・iPad に録音しながら鑑賞する ・よかったところやアドバイスをすることを意識しながら演奏を聴く	・実際の虫の声を iPad を利用して聞かせる ・楽器の準備をする。 (1) マラカス・トライアングル・すずなどの打楽器 (2) 木琴・鉄琴 (3) キーボード (4) 手作りの楽器(探究科で作成)  ・打楽器でもよいし、キーボードで音色を変えてメロディをひいてもいいことを知らせる。  キーボードでいろいろな楽器の音に変えてみる 楽器の基本的な奏法を指導する	③ ⑤
考えを深める(15分)	4 アドバイスをもとに、楽器を選び工夫して演奏する。 楽器をつかって「むしのこえ」を演奏しましょう	・部屋を少し暗くして秋の風景をテレビモニターに映す	⑤
まとめ・振り返る(5分)	5 本時の振り返りと次の時間の学習内容を聞く。	・振り返りシート ・次回は皆で合わせて演奏することを知らせて、意欲を持たせる	

# 第1学年2組 図画工作科学学習指導案

学習者:第1学年2組 16名 指導者: 岩野真琴

1 単元名 新聞紙が不思議な生き物に ～さあ、みんなであそぼう!～

2 単元目標 新聞紙粘土を作ったり触ったり動物する活動を通して、表したいことを見付けたり考えたりしながら想像を膨らませ、素材の特徴の面白さや形の変化などに気付き、作品への愛着を深め、作り出す喜びや協力して活動する面白さを味わいながら楽しく取り組む態度を育てる。

3 単元の評価規準

柱	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	新聞紙粘土を作りながら、新聞紙の特徴の面白さや形の変化などに気付く。 手や体全体の感覚を働かせながら工夫して作品を作る。	新聞紙粘土の形や触った感じをもとに、表したいことを見付ける。 自分たちの作品の造形的な良さに面白さを感じ、表したいことや表し方などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。	材料に愛着を持ち、作り出す喜びや協力して活動する面白さを味わいながら、楽しく取り組む。
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習する態度
評価規準	① 新聞紙の特徴の面白さや形の変化などに気付く力。 ② 新聞紙粘土に慣れながら、手や体全体の感覚を働かせ、つくりたい生き物を工夫して表す力。 ③ 自分や友達の作品を生かす場をいろんな素材を選んで、工夫して表すことができる力。	④ 表したいことを見付け、どのように表すかについて考える力。 ⑤ 作品の造形的な良さや面白さを感じ、いろいろな表し方などについて気付き、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる力。 ⑥ 自分や友達の作品のよさを感じ取ってその作品を生かし、協働して遊ぶ場を考える力。	⑦ 材料に愛着を持ち、作り出す喜びや面白さを味わいながら、造形に楽しく取り組む力。 ⑧ 自分や友達の作品に関心をもち、協働して楽しく遊び場をつくらうとする力。

4 単元設定の理由

本学級の児童は、これまで図工の時間に限らず、休み時間等に空き箱や新聞紙で制作活動を楽しむ様子が多く見られる。授業では、粘土や絵の具を使うことにも楽しく進んで取り組み、意欲的に色々な技法を試してみようとする様子がよく見られる。

本単元では、自分たちが遊びに使っていた新聞紙を、このまま廃棄するのではなく、何かに利用することはできないかと考えて、新聞紙粘土を作る取り組みにつなげ、新聞紙をちぎり、水と洗濯のりを加えてよく混ぜ合わせることで、その触感を楽しみながら、自分だけの不思議な生き物を作り上げる学習である。そこまでの活動からさらに探究し、次は作り上げてきた愛着のある生き物を、皆で遊ばせてはどうだろうか、遊ばせるにはどんな場所を作るとよいかを考えることで、自分や友達の作品への関心を深め、各作品を「もっと生かす場をつくりたい」という気持ちを広げ深めていきたい。

単元の指導においては、単元を通して新聞紙粘土に触れながら、「こんなこともできる」「あんなこともしてみたい」という児童の見方・考え方を広げていく。いろいろ試したり、何度も作り直したり、友達との学び合いから新たな発見をしたりして、制作活動を楽しむ。自分の作品に満足した児童が、共有の遊び場を考え合い、協働してつくることによって、他者の作品にも目が向き、どうしたらもっと楽しい作品ができるか、どう活かしたらもっと生活が豊かになるかという探究につなげていきたい。

# 5 単元指導計画(全7時間)

過程	時数	学習活動	評価
習得・活用	1	○新聞紙粘土に興味を持ち、実際に作る。 ○新聞紙粘土で不思議な生き物を作り、どんな場所で遊ぶか、発想を膨らませる。	①②④
	1	○新聞紙粘土を自分の作りたい不思議な生き物に作りあげていく。 ○指先や手をつかって、「こんなこともできそう」「これはどうかな」と、試行錯誤しながら、生き物の形に作り上げていく。	
	1	○乾いた生き物たちを見合いながら、「こんな生き物ができたんだ」「これもおもしろそうだな」と、自分の想像の幅を広げながら、着色していく。	⑤⑦
	1	○絵の具が上手く着色できないときには、どうすれば着色できるかを、友達と考え合う。	
	1	○自分の作品を写真に撮り、見せ合う。吹き出し等もいれて、自分の作品に動きを付ける。 (ロイロノート使用) ○自分と友達の作品に関心を持ち、遊ぶ場所が同じグループで、協働して楽しい遊び場をつくる意欲付けをする。	⑤⑥
探究	1(本時)	○前時をふりかえりながら、遊び場のイメージを膨らませていく。 ○実際に遊ぶ場所を作りながら、素材選びや使い方、組み立てや配置の仕方、遊ばせ方など意見を出し合わせることで、一人ひとりのもつ発想をつなげ(広げる)、具体的に形や意図をもったものにしていく(深める)。	③⑥
	1	○作品を持ち寄り、遊び場をつくったよさや工夫を振り返り、考えた遊び場を見直す。	⑥⑧

## 6 本時の学習 令和7年10月24日(金) 第4校時 11:30~12:15

- (1) 目標 自分で作った不思議な生き物の遊び場をつくる活動を通して、自分や友達の作品を生かすためにそれぞれの作品のよさを感じ取ってその作品を生かしたり、新たな素材を選んだりしながら発想を広げ、共通のイメージを作りながら工夫して表現することができる。

### (2) 展開

段階	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点	評価
問いを立てる(3分)	1.これまでの学習を振り返り、本時の学習内容を確認める。 ・新聞紙粘土を作って、不思議な生き物を作った。 ・みんなの作品を見ながら、自分の生き物を進化させた。 ・遊ぶ場所が同じグループで作品を見あった。 <div>みんなで遊べる遊び場を作っていこう。どんな遊び場を作ろうかな。</div>	・新聞紙粘土で作り上げた不思議な生き物を、どんな場所で遊ばせたいのかについて話し合いながら、本時の学習への見通しを持つことができるようにする。	
考えを広げる(7分)	2. 前時で出し合ったイメージやアドバイスをもとに作りたい遊び場の意見をグループで出し合い、発想を広げていく。 <どんな遊び場で何を作るか> ・山の中にブランコや滑り台をつくってみよう。 ・海には砂場を作りたい。 <どんな材料で、どんな作り方で、どんな物を作るか> ・この空き箱は、ブランコにできそう。 ・ビニールシートで海ができそう。	・これまで、空き箱や、紙コップなどの素材を使って、いろいろなものを作ることができた例を、実物や写真を見せながら示す。	⑥
考えを深める(30分)	3.グループ(5.6人×3グループ)で実際に遊ぶ場所を作りながら、みんなで考えたイメージを形にしていこう。 4. 他のグループの作品を見ることで発想を広げ、更に自分達の作品を活かすことで、より見方が広がった作品となる面白さを味わう。 ・あのグループの箱の重ね方だと、こんなこともできそう。 ・あのグループの紙コップの使い方がおもしろい。	・作り方で困っている児童には、困りの内容を把握し、他児に繋げたり、友達の工夫を広げたりして個別の声かけを行う。 ・作品が出来上がるころに、グループで作った遊び場を見合いながら、更に活かそうなどところはどんなところかを見つけさせる。	⑥⑧
まとめ振り返る(5分)	5.本時の学習を「自分のグループの遊び場自慢」をすることで振り返り、次時の学習への見通しを持つ。 ・こんな工夫ができた。 ・もっとこうしてみたかった。	・「自分のグループの遊び場自慢」を発言させることで、次時の制作意欲に繋げる。	⑥⑧

# 第6学年2組 体育科学習指導案

学習者:第6学年2組 20名 指導者:福原 有将

## 1 単元名 みんなでめざそうバスケ MVP (全8時間扱い)

## 2 単元目標

バスケットボールの基本的なボール操作を身に付け、仲間と協力して作戦やルールを工夫する活動を通して、バスケットボールの特徴を理解して簡易化されたゲームをすることができるようにするとともに、ルールを工夫したり自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりできるようにし、ルールを守り助け合って運動をしたり仲間の考えや取り組みを認めたり場の用具の安全に気を配ったりする態度を養う。

## 3 単元の評価規準

柱	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	バスケットボールの行い方を理解するとともにボール操作とボールを持たない動きによって、チームの作戦に基づいた位置取りをするなどの簡易化されたゲームをすることができるようにする。	ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。	バスケットボールに積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取り組みを認めたり、場の用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習する態度
評価規準	① バスケットボールの行い方について理解し、実際に動くことができる。 ② 得点しやすい場所でパスを受けたり、シュートしたりすることができるようにする。	③ 自分のチームの特徴に応じて、チーム全員がシュートを打つことができるような作戦を選んでいる。 ④ 味方が受けやすいようにボールをつなぐことや、チーム全員がシュートを打つことについて、自己や仲間の考えたことを伝えたり書き出したっている。	⑤ 課題解決に向けたチーム練習や簡易化されたゲームに進んで取り組む姿 ⑥ ルールやマナーを守り、助け合って運動しようとしている姿 ⑦ お互いの動きを見合ったり、話し合ったりする際に、仲間の考えや取り組みを認める力 ⑧ 自らの学習理解や態度を振り返り、これからの学習に活かす力

## 4 単元設定の理由

本学級の児童は、運動に対して苦手意識をもつ子が多く、特に集団での球技に不安を感じている様子が多くみられる。本単元では、ルールやコートの広さを簡易化し、基本的なボール操作や動き方を段階的に身に付けることができる「バスケットボール」を取り入れることで、誰もが楽しく参加できるように工夫している。

本単元では、ボール操作やボールを持たないときの動きを身に付け、チームの中で自分の役割を理解して行動する力を育てるとともに、自分たちで作戦を考えたり、仲間と話し合ったりしながら試行錯誤する中で、主体的に運動に取り組もうとする態度や探求心を育成していく。

単元指導においては、運動が得意でない児童も意欲的に取り組めるよう、ルールや活動内容を工夫し、成功体験を積み重ねられるようにする。また、仲間と協力しながら作戦を考えたり、意見を伝え合ったりする活動を通して、課題を解決しようとする姿勢や、互いを認め合う態度を伸長する。

# 5 単元指導計画(全8時間)

過程	時数	学習活動
習得・活用	Ⅰ	・ボールに慣れる運動の行い方を知る・ボールを使ったストレッチ・チームの編成 ・チームドリブルの行い方を知る
	Ⅰ	・ボールに慣れる運動を行う・ボールを使ったストレッチ・パス練習・シュート練習
	Ⅰ	・3対2のバスゲーム・タッチ数調べを行う・タッチ数が多い人の動きを考える ・ボールを持たない時の動きを考える。
	Ⅰ	・ドリブル練習・パス練習・シュート練習・3対2のバスゲーム(タッチ数に気をつける) ・得点につながる動きについてチームで話し合い全体で共有する
	Ⅰ	・ドリブル練習・パス練習・シュート練習・3対2のゲーム(タッチ数に気をつける) ・得点を決めるための有効な動きについてチームで共有する
探究	Ⅰ (本時)	3対2のゲーム①②を行う・チーム全員がシュートを打てるために2対1の状況は作れたか話し合う (コート図を活用したチームミーティング) ・話し合いをもとにチームで練習を行う・3対2のゲームを行う・本時の成果と課題について振り返る
	Ⅰ	・チームでドリブル練習・パス練習・シュート練習(タッチ数に気をつける) ・これまでの作戦を活用して4対4の総当たり戦を行う
	Ⅰ	・チームでドリブル練習・パス練習・シュート練習(タッチ数に気をつける) ・これまでの作戦を活用して4対4の総当たり戦を行う・バスケットボールの授業を通した振り返りを行う

## 6 本時の学習 令和7年10月24日(金) 第4校時 11:30~12:15

(1) 目標 数的優位をつくる動きやパス回しを通して、仲間と協力しながら攻め方を工夫し、全員がシュートを打てるようにすることで、主体的にチームの中で役割を果たそうとする態度を育てる。

(2) 展開

階	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点	評価
問 い を 立 て る (8分)	1 準備体操ストレッチ、チームドリブルをする。 ・ドリブル練習 ・パス練習(ノーバウンド・ワンバウンド) ・シュート練習 ・3対1のパスゲーム  チーム全員がスムーズにシュートを打てるために、 2対1の場面をつくろう	・チームリーダーを中心にチームの中で準備体操ストレッチを行う。 ・パス練習とシュート練習は並行して行う。 ・前時の児童の振り返りから、数的優位を生かして簡単にシュートが打てるための攻撃パターンを紹介する。 ・めあて・学習の流れ・ルールを提示し学習の見通しがもてるようにする。	
考 え を 広 げ る (20分)	2 3対2のゲーム①を行う。 ・攻守固定 守備側ゴールマン2人 攻撃3分 守備3分 計6分 3 ゲーム①の結果をもとにチームで話し合う (15分) {予想される児童の考え} ・スペースをつくることができなかった・ドリブルばかりになった ・周りを見られなかった・ディフェンスを引き付けられなかった ・全員がシュートを打つことができなかった 4 チームで作戦について話し合う ・児童からの気づきを共有する ・ゲーム②に向けたチーム練習を行う {予想される児童の考え} ・味方どうして声を掛け合う・動く場所をきめる・ ・誰をマークするのか決める	・コートの一部屋図やマグネットなど話し合いに活用できるものを用意する  ・ゲーム①の得点を表にまとめて掲示し、全員シュートができたのか確認していく ・2対1の状況をつくるための動きやポイント等を共有する	
考 え を 深 め る (10分)	5 3対2のゲーム②を行う ・攻守固定 守備側ゴールマン2人 攻撃3分 守備3分 計6分	・ゲーム①の結果をもとに、対戦を組みなおしてゲームを行う ・ゲーム①での課題点を意識しながら作戦を考えたり、そのための声掛け(助言)をしているチームを紹介する	
深 め る (7分)	6 本時の学習をチームで振り返る ・振り返りシートに記入(ロイロノート) ・本時の学習でできたこととその理由 ・まだ難しいところとその理由	・ゲーム②の結果を表にまとめ、本時のめあてが達成できたのか振り返る ・常に数的優位をつくるために、意識して動くことができたか確認する	

# 第4学年2組 英語科学習指導案

学習者:第 4学年 2組 21名 指導者: 小柳 薫(T1)、デニス・スパイク・ノーマン(T2)

- 1 単元名 Communicate what we want to say. ～言いたいことを伝えよう!～(全9時間扱い)
- 2 単元目標 自分たちが作りたいサラダの材料を買いに行くロールプレイを通して、食べ物に関する語彙と買い物に必要な基本表現を理解し身に着けると共に、自分の思いを相手に的確に伝えられるように柔軟なコミュニケーション能力を育成する。
- 3 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習する態度
話すこと(やりとり)	①食べ物英語名を理解している ②アメリカの通貨を理解している ③買い物に必要な文や表現を使っている	④自分たちの作るメニューに必要な材料と数量を考えて買い物シートを作り、それを見て欲しいものを伝えあっている ⑤買い物した金額を理解し、正確に支払いをし、お釣りをもらっている。	⑥グループメンバーと協力して、主体的に学習をすすめようとする態度を示している。 ⑦作りたいメニューで必要となる材料の種類と数量を考え、欲しいものを入手し、正確にお金のやり取りができるように伝えあおうとしている。

## 4 主な表現・語彙

・表現 May I help you? What do you want? I want (数) (野菜). It's ..dollars and ..cents. Here you are.  
・語彙 野菜名, 数字, 米金額(ドル・セント)

## 5 単元設定の理由

本学級の児童は英語への興味・関心が非常に高く、また、授業に取り組む態度も積極的で、自ら進んで発言するなど学習活動への参加意欲も高い。しかし、英語表現に関しては、自分が「発言した」ことに満足し、それが相手に正確に伝わったかどうかを確認したり、自分の表現を更に向上させようとまで深く考えてはいない傾向がある。

そこで、今回は、教科書を独自に発展させ、日常生活でも身近な「買い物」の場面を設定してロールプレイを行い、生活に密着した実践的な場面での英語でのやり取りを体験することを通して、相手の反応を見ながらその場でふさわしい会話内容を考えて発言し、他者の発言や表現を参考にして更に発展・向上させることを考えさせたい。現実的な場面で、相手とやり取りして相手の言いたいことを理解し、自分の言いたいことを伝えて買い物を成功させるというミッションをクリアしようと考え、主体的・対話的な学習につなげることができると考えている。

指導に当たっては、「その場で文を考えて発話する」必要性が生じるよう準備するのは「サラダイラスト」のみとする。また、児童が「店員」役をして他グループの買い物の相手をする中で、それを参考に自分たちのコミュニケーションの問題点や改善できる点に気づかせる。その上で、自分たちが行った買い物におけるコミュニケーションをより良くするためにはどうしたら良いかを話し合い、再トライにつなげる。自分たちで他者とのやり取りを改善する体験を通して、英語を使う事に自信を持ち、他者との意思疎通を円滑にするコミュニケーション活動に前向きに取り組むように育てていきたい。

## 6 単元指導計画(全9時間)

過程	時数	言語活動	付いた
習得・活用	1	○「おやつ」を表す語彙と「～ want(s) some ...」の文を理解し、互いに意見を伝えあう。	①
	1	○ Yes/No 疑問文と「What」を使った疑問文、その答え方を学習し、ワークブックで表現や内容の理解を定着する。	②
	1	○ 野菜を表す語彙とその単・複数形の違いを理解し、絵や写真を見て正しく伝えあう。	①
	1	○ 疑問詞を使った疑問文を使ってたずね、単数・複数使って答えて意見を伝えあい、ワークブックで表現や内容の理解を定着する。	③
	1	○ 自分が作りたいものを伝えあい、ワークブックを使って、問答の文を定着する。	④
	1	○ 例題の買い物メモを見ながら英語で買いたいものを伝え合う練習をする。	②
探究	(本時) 1	○ アメリカの紙幣と硬貨を紹介し、アメリカの紙幣・硬貨の使い方を学習する。 ○ ハロウィーンパーティーのサラダの材料を考え、買い物のための「サラダイラスト」を作る。	⑤
	1	○ グループ同士「G1→G2, G3→G4」で買い物に行くロールプレイを行う。 ○ 言いたいことを相手に伝えるには何が必要かを考え、自分の欲しい(集めたい)野菜などの注文をしたり、注文に答えたりすることができる。 ○ 改善点を意識して、教師が「店員」となった「店」に再度買い物に行く。 ○ 自グループ・他グループのコミュニケーションの良かったところ、気になったところを出し合って、今後の更なるコミュニケーション向上につなげる。	⑥⑦ ⑦

7 本時の学習 令和7年10月24(金) 11:30 ~ 12:15

(1) 目標 野菜サラダの材料を買いに行くロールプレイを通して、言いたいことを相手に伝えるには何が必要かを考え、自分のほしい(集めたい)野菜などの注文をしたり、注文に答えたりして伝えあおうとするようにする。

(2) 展開

段階	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点	評価
問いを立てる(4分)	<p>1. 本単元の学習のめあてを提示し、前時までの学習の内容を確認める。</p> <p>Goal: communicate what we want to say (言いたいことを伝えよう!)</p> <p>・実際の買い物場面で、注文のやりとりをするために必要なことは何かを確認する。</p> <p>何ができたら、相手にうまく伝えられて、上手な買い物ができるかな</p> <p>・(単語)正しい「数」「野菜」「お金」の言い方 (文の組み立て)正しい単語の並べ方 (コミュニケーションマナー)はじめ、渡す時、お礼などの挨拶 (態度・発音)身振り、表情など接客・スピード、音量、間等話し方</p>	<p>・事前に単語とターゲット表現については十分に反復練習をしておく。</p> <p>・アメリカ通貨の種類と使い方については事前に練習をしておく。</p> <p>・買い物で必要な野菜サラダの単語のないイラストは事前に用意しておく。</p> <p>・必要な視点を分かりやすくするために、児童の考えを(単語)(文の組み立て)(コミュニケーションマナー)(態度・発音)に分類しながらT1が板書に位置付ける。</p>	
考えを広げる(13分)	<p>2. グループ同士(G1→G2, G3→G4)で買い物をする。</p> <p>・必ず1人1回は発言することを基本ルールとする。</p> <p>・その対応(困り、伝わらなかったことなど)をワークシートに記入し、グループでまとめ、発表する。</p> <p>○各グループの改善点を確認し、解決できない部分を焦点化する。</p> <p>・(単語)(文の組み立て) (コミュニケーションマナー)(態度・発音) できなかったことはどうすればできるようになるの? → 覚える、練習すると出た場合、自己課題として位置づけ、グループでの困りがなかったかを確認する。 (対応の仕方)⇒困りやわからなさを探検課題とする↓</p>	<p>・T1, T2 はそれぞれのグループの会話を聞きながら、グループの良さや困りやわからなさを把握しておく。</p> <p>・見ているだけの人がいるグループには、全員の順番があるように個別に声をかける。</p> <p>・(接客マナー)は上手なグループにしてもらい、実際に練習させる。</p> <p>・(困りやわからなさの対応)はT1が板書して課題の焦点化につなげる。</p>	⑤
考えを深める(25分)	<p>3. 「わからなさや困りへの対応」が話題になった時、課題提示し、解決方法を考える。</p> <p>言いたいことをどんな言葉で聞き返したらよいか。</p> <p>・日本語を考えて、それを英語で表す方式で考える。</p> <p>【予想される児童の考え ⇒解決方法】</p> <p>・わからない時、なんと聞き返すか。⇒One more time.</p> <p>・相手が黙った時なんて言う。⇒買い手 What do you want? ⇒売り手 Do you get it?</p> <p>・おつりを確認する時なんとと言うか⇒ Is this OK?</p> <p>・数・ものを間違えた時、何と言うか。 ⇒I'm sorry, it is three./ I'm sorry I want ham. / No, not two.</p> <p>・卵のパックなどの言い方が通じない時はどうするか。 ⇒I want a small pack of eggs./ I want a can of tuna.</p> <p>4. 考えた改善点を活かして、もう一度チャレンジする。各グループ店側か客側のどちらかになってロールプレイする。</p>	<p>・「わからなさや困り」が出ない場合は、T2とグループの代表2名にやってもらい、そのよさやさらなる改善点を考えさせる。</p> <p>・左記の困りの場面が児童から出ない場合はT1T2でその場面を見せて、実際の解決方法を探究させる。</p> <p>・児童だけで考え付かない表現 Do you get it?などは、T2に発音してもらい、練習する。</p>	⑦
まとめ振り返り(3分)	<p>5. 2回目のロールプレイの結果を基に改善できたところや本時の学びをロイロノートの振り返りシートに記入する。</p> <p>言いたいことを伝えるためには、「正しい単語や文の組み立て、気持ちのよいコミュニケーションマナーなど」「聞き返しの言葉」を身に付けることが必要である。</p>	<p>・授業初めに気をつけたことと本時のロールプレイと改善点の学びをした後との違いを意識させるために、振り返りシートに学びの足跡を残させる。</p>	



# 第5学年2組 探究科(B領域)学習指導案

学習者:第5学年2組 26名 指導者:牧野 大輔

## 1 単元名 見直そう別府の街の防災(全30時間扱い)

## 2 単元目標

別府市の防災について、修学旅行の見学先である雲仙の被害等を調べることを通して、災害が人々に与える影響について理解し、外国人や観光客が多く存在している別府市の防災や安心して過ごせるための工夫を考え、命を大切に、地域と協力し合おうとする態度を育てる。

## 3 単元の評価規準

柱	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
目標	雲仙普賢岳の噴火による被害の様子や原因を理解し、別府市の地形や火山の防災上の特徴についても理解を深め、災害が地域の人々の生活や暮らしに与える影響を理解する。	雲仙普賢岳や熊本地震、東日本大震災等の事例と、東京ディズニーリゾートの防災への取り組みを比較し、自分たちができる防災について考えると共に、家族や外国人を含む観光客が安心して過ごせるための方法を考えることができる。	災害の恐ろしさを知ることを通して、被災者の思いに共感したり命の大切さを再確認したりし、自分たちの地域を守るために進んで行動し助け合って過ごそうという態度を養う。
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習する態度
評価規準	① 雲仙普賢岳をはじめとする災害の被害について調べ、特徴などを理解している。 ② 別府市の自然条件や災害リスクについて理解し、説明することができる。	③ 各種災害の事例と、別府の災害リスクを比較し、共通点や相違点をまとめることができる。 ④ 自分や地域に必要な防災の備えや行動を具体的に考え、表現しようとする。	⑤ 災害の恐ろしさを理解し、被災者への共感や、命を大切にしようとする態度が見られる。 ⑥ 他者や地域と協力し、防災を強化することや、安心して過ごせる別府市にするために役に立つ行動をしようという姿勢が見られる。

## 4 単元設定の理由

本学級の児童は、災害についての経験値は浅く、漠然と「怖い」「危ない」というイメージを持っている程度で、身近な地域にどのような災害リスクがあり、どのように備えれば良いのか等の防災への理解や意識は低い。11月に本学年最大のイベントである3泊4日の修学旅行が控えており、非常に楽しみにしている。見学先の中には雲仙市での災害について学ぶ機会が控えており、児童は興味関心を高く持って事前学習に取り組もうとしている。

本単元では、雲仙普賢岳をはじめとし、様々な災害について学ぶことで、災害自体の知識だけでなく、自分たちの暮らす別府市と比較することを通して、家族・住民・留学生・観光客が安心して過ごせるにはどうしたら良いか具体的に考え、表現し、行動する中で、命を大切にする心情や地域社会と共生しようとする態度を育てることができると考える。

単元指導においては、写真や映像資料を活用し、視覚的に災害に対する理解を深めることを重視したい。また、別府市内に点在している観光地の防災について話を聞いたり、東京ディズニーリゾート等防災への意識が高く実績も残していることを調べたりすることで実用的な防災への考えが生まれるよう学習を展開していく。その中で、グループ活動や、発表活動、それに対する意見交流などを繰り返し行うことで、児童が自分ごととして、さらには市民の視点で地域の防災を考えられるよう工夫して進めていく。

## 5 単元指導計画(全30時間)

小単元I (10時間)	時数	学習活動	付けたい力
課題設定	1 2	・ 修学旅行の見学先にある「がまだスドーム」ってどんなところだろう。 ・ よく知られている災害について調べてみよう。	①
情報の収集	3 4・5 6・7	・ 調べる災害を決め、グループ分けしよう。 ・ グループごとに災害について調べまとめよう。 ・ まとめたこと発表し、共有しよう。	① ②③ ⑥
整理・分析	8 9	・ 各災害から防災について必要な要素は何か考えよう。 ・ 緊急時の優先順位を考え、友達と比べてみよう。	②④ ⑥
まとめ・表現	10	・ 学んだことをまとめてみよう。	⑤
課題の更新	11	・ (まとめから)災害の被害が大きくなるのはどんな時だろう。	⑤

小単元2 (20時間)	時数	学習活動	付けたい力
課題設定	12 13	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京ディズニーリゾートは、なぜ東日本大震災で7万人を救ったと言われているのだろう。</li> <li>東京ディズニーリゾートの避難訓練から学べることは何だろう。</li> </ul>	② ④ ⑥
情報の収集	14～ 18	<ul style="list-style-type: none"> <li>別府市の防災について調べよう。</li> <li>別府の観光地の防災についての取り組みを聞いてみよう。</li> </ul>	② ④
整理・分析	19 20(本時) 21	<ul style="list-style-type: none"> <li>別府の防災の問題点についてまとめよう。</li> <li>市民、留学生、観光客の視点で防災を捉え直そう。</li> <li>気づいたことを元に自分たちができることを考えよう</li> </ul>	② ④⑥ ⑤
まとめ・表現	22～ 30	<ul style="list-style-type: none"> <li>別府の観光地の防災に役立つ物を作ろう(子どもでも分かる防災マニュアル、観光客向け避難案内、外国人向け安全看板など)</li> <li>作った物を観光地の方へプレゼンしよう。</li> <li>学習全体を振り返って、学んだことをまとめよう。</li> </ul>	④ ⑤ ⑥

## 6 本時の学習 令和7年10月24日(金) 第4校時 11:30～12:15

- (1) 目標 坊主地獄の防災対策の話聞くことを通して、市民、観光客、外国人、障がい者の視点を含めて整理を深めることで、自分たちが役に立てそうなことについて見通しを持ち、地域に貢献しようという心情を深めることができる。

### (2) 展開

機	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点	評価
問いを立てる(8分)	<p>1 これまでの学習を振り返る。</p> <p>それぞれの場所がもっと安全に、安心して過ごせるために、自分たちにもできることはないか考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までに学習してきた内容をもとに資料をまとめておく。</li> <li>めあてを提示し学習の見通しがもてるようにする。</li> </ul>	
考えを広げる(10分)	<p>2 坊主地獄の防災対策について話を聞く。(GT)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いいなと思った点をみつける。</li> <li>これまで調べたことと比べながら聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どんな対策をしているのかまとめながら聞くようにさせる。</li> <li>自分ならどんな対策をしていると助かるのか考えさせる。</li> </ul>	
考えを深める(20分)	<p>3 別府市には市民だけでなく、留学生などの外国人や観光客、障がい者など様々なタイプの人がいることに目を向け、それぞれの人のことも考えられた防災対策になっているのか確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人でチャートに書き込む時間を取り、グループで見合う。</li> <li>Xチャートを使って整理しながら、もっとこうした方がいいというアイデアも出し合い、完成させていく。</li> <li>整理したXチャートをモニター表示し、話し合いの中で出てきたことやアイデアを発表し、考えを共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Xチャートを使用させる</li> <li>Xチャートを市民、外国人、観光客、障害者に分けて整理し直させる。</li> <li>市民、外国人、観光客、障害者の中で少ない部分に目を向けさせるなどしてアイデアを促す。</li> </ul>	④
振り返る(7分)	<p>4 本時の学習をチームで振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習についての感想を GT から聞く。</li> <li>振り返りシートに記入(ロイロノート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感想を深く考えさせるために、自分たちが役に立てそうだったことや、実際にどのような活動を今後していきたいかを考えさせる。</li> </ul>	⑥